旬の贈り物
好評！ 企画紙面「Fresa」

Fresa！ Fan！ Fresh！ Friendly！ Fine！ Freedom！
フレッサ 下野新聞 読者倶楽部

Fresa

*「フレッサ」とは、スペイン語で「イチゴ」のこと。私たちの故郷・栃木県が長年にわたり全国生産量1位を誇る県の代表的なくだものを倶楽部の名前としました。

いいとちぎ。

フレッサ 2024年7月 企画・制作：下野新聞社販売促進部

July 2024 vol.10

PRESENT プレゼントキャンペーン

ドド～ンと豪華に
60名様に当たる

誰でも応募できる！

ご応募は「ハガキ」または「とちぽ（LINE）」で！

LINEでシンプルカンタン応募！

●「ハガキ」または「とちぽ（LINE）」で
①希望賞品（3つまで、記号）　②郵便番号　③住所
④氏名　⑤年齢　⑥職業　⑦電話番号　⑧新聞購読の有無
を明記の上、下記までご応募ください。

●当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。
●プレゼントのご応募に際して、
下野新聞の購読は条件ではございません。

おとくにポチッ とちぽ to-chi-po
▲まずは友達登録

【応募〆切】2024年8月5日（月）必着
【宛先】〒320-8686 宇都宮市昭和1-8-11
下野新聞社　販売促進部「フレッサvol.10」プレゼント係

※なお、ご記入いただいた個人情報は、抽選、賞品の発送、応募集計・分析に使用し、下野新聞社の「プライバシーポリシー」に則って適切に管理します。賞品の特性により発送元が下野新聞社でない場合は、発送に必要な情報を発送元に提供する場合がありますのでご了承ください。

※写真はイメージ。実際の内容とは異なる場合がございます。

A賞 ペア券×2名様

第30回りんどう湖 花火大会 G藤棚観覧席（8月31日（土）限定）

那須高原の夏の風物詩として毎年大好評！「那須高原りんどう湖ファミリー牧場」で開催される花火大会。湖面に映る幻想的な水中・水上花火をはじめ、約3,000発の花火が30分間で一気に打ち上がり、那須の夜空とりんどう湖を色鮮やかに彩ります。

※閲覧席は8月31日（土）限定。開催時間は午後7時半から8時まで。※別途入園料が必要です。

那須高原りんどう湖ファミリー牧場　那須町高久丙414-2

B賞 5名様

家庭用花火セット「デカ盛りデラックス」

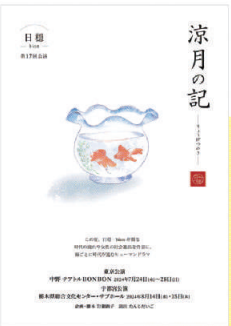
「おもちゃやお土産を通じてたくさんの思い出を」という想いで、お土産品や県内外の有名キャラクターのオリジナル商品の企画・開発・販売、観光物産や縁日・お祭り商品の卸・小売を手がける「TATENO」。「デカ盛りデラックス」は、満足感たっぷりの豪華な花火セット。夏の思い出作りのお供にぴったりです。

株式会社タテノ
下野市石橋178-2（営業時間：10:00～17:00、第2・4土曜、日曜、祝日定休）

C賞 ペア券×2名様

日穏-bion-（びおん） 第17回公演「涼月の記」

8/15（木）12:00の部



ハリウッド映画に出演するなど海外でも活動する宇都宮市出身の岩瀬顕子が主宰するプロデュース劇団「日穏-bion-」。社会的問題を背景に盛り込みつつ、笑って泣けて、心がじんわり温かくなる作品で、幅広い世代から好評を得ています。第17回公演は、時代の流れや女性の社会進出を背景に、幕ごとに時代が進むヒューマンドラマ。

※全公演日時：8月14日（水）19:00、15日（木）12:00／16:00
会場：栃木県総合文化センター　サブホール

一般社団法人とちぎ 映画演劇文化協議会

D賞 2名様

SRIXON Z-STAR XV 半ダース（下野新聞社ロゴ入り）

世界で戦うプロをはじめ、多くのゴルファーに支持される「SRIXON（スリクソン）」。『Z-STAR XV』は、優れたトータルパフォーマンスが更に進化。ドライバー飛距離性能を重視したモデルです。コアの硬度分布を2段階に最適化した「ファストレイヤー D.G.」コアで、スムーズな変形により心地よいフィーリングと効率的なエネルギー伝達を実現。下野新聞社ロゴ入り。

下野新聞社
宇都宮市昭和1-8-11

E賞 ペア券×4名様

かみねレジャーランド 入園券

日立市かみね公園内にある「かみねレジャーランド」は、自然に囲まれて楽しめる本格レジャー施設。山の斜面に建てられているため、スリルと爽快感が味わえる「ドリームコースター」や、海抜160mから太平洋の大海原や市街地を一望できる「大観覧車」など、個性豊かな15種のアトラクションが楽しめます。

かみねレジャーランド
茨城県日立市宮田町5-2-22

F賞 10名様

茶農家直送 八十八夜摘み「新茶」

立春から数えて八十八日目にあたる「八十八夜」に摘まれた新茶。古くから、八十八夜に摘まれたお茶を飲むと長生きできると言われてきました。お茶どころ静岡県の中でも随一の緑茶の産地・牧之原の茶農家が大切に育てた、コクのあるおいしい緑茶です。

さくら園　静岡県静岡市駿河区向手越2-5-13

G賞 ペア券×10名様

益子陶芸美術館 入場券

9月23日（月・振休）まで、「英国ロンドン派」展を開催中。欧州の中でも陶芸大国として名高いイギリス。なかでも首都ロンドンでは多くの陶芸家が活躍しています。日本とイギリスの陶芸の関係は、1920年にバーナード・リーチと濱田庄司が登り窯を築いた時代にさかのぼります。今回はコレクションの核の一つでもある英国陶芸の中からロンドンに焦点を絞り、新たに「ロンドン派」と名づけ紹介します。

益子陶芸美術館
益子町益子3021

H賞 ペア券×10名様

栃木県立美術館 観覧券

9月8日（日）まで、「ベル・エポック―美しき時代」を開催中。19世紀末から20世紀初頭の世紀転換期に始まる「ベル・エポック」は、"美しき時代"として回想され、美術だけでなくさまざまな芸術や科学技術が発展しました。芸術家たちが集う華やかな街の情景を、画家「トゥールーズ＝ロートレック」「シェレ」によるポスター、生活を彩る工芸品やファッション、貴重書などの豊富な資料を含む国内外の作品によって紹介。

栃木県立美術館
宇都宮市桜4-2-7

I賞 ペア券×10名様

日光田母沢御用邸記念公園 入場券

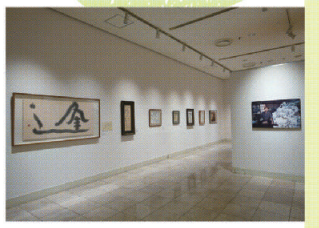
四季折々の風情ある庭園と、江戸時代後期・明治・大正と三時代の建築様式や当時の生活の様子が分かる、見どころ満載の観光スポットです。10月13日（日）までの土・日曜、当時御用邸の庭師等が使用した半地下通路の「下行道（げこうどう）」を通り、御用邸の中坪（中庭）を専属ガイドが解説しながら案内する御用邸「中坪めぐりツアーガイド」を開催中。

日光田母沢御用邸記念公園
日光市本町8-27

J賞 ペア券×5名様

足利市立美術館 入場券

9月1日（日）まで、「生誕100年 相田みつを展―いのちを見つめることば―」を開催中。豊かな自然と重厚な歴史を持つ足利に生まれ育った書家・相田みつを。生誕100年を記念して故郷の足利で開催される展覧会です。代表作として知られる『ただいるだけで』『道』『つまづいたって』をはじめとする数々の作品は、今もなお多くの人々の心をとらえています。代表作から隠れた名作まで、相田みつをが書家、詩人として残した足跡を振り返ります。



足利市立美術館　足利市通2-14-7

祝 下野新聞社杯 第55回 県学童軟式野球大会

下野新聞ご購読で 入場行進写真

A4サイズ相当 無料プレゼント

※写真はイメージです。

下野新聞社は開会式に出場した、ご希望のチームの入場行進写真を無料プレゼントするキャンペーンを実施します。

プレゼント対象は以下のいずれかに該当する方です。
- 下野新聞を購読していない
  ➡ 会場で新規に6ヵ月以上の購読契約をする。
- 下野新聞を購読している
  ➡ 会場で購読契約を1年間延長する。

申し込みは7/30（火）開会式当日のみ
14:00～開会式開始時刻まで
会場内下野新聞ブースにて受付！
詳しくは、エイジェックスタジアム（本球場）入口付近にある下野新聞ブースへ

お問い合わせ：下野新聞社 販売促進部 TEL 028-688-7666

同時開催
大会出場記念 オフィシャルグッズ販売
開会式会場のみ14:00販売開始
※売り切れ次第終了

マフラータオル 1,000円（税込）
サイズ：W1,080㎜×H205㎜
限定1000枚

※デザインと色が異なる場合がございます。

Fresa 2024.7.22 vol.10

下野新聞読者倶楽部
企画・制作
下野新聞社販売促進部

夏の夜空を鮮やかに彩る大輪の花、「花火」を見に行こう！

時代が移り変わる中で、長い間、夏の風物詩として親しまれてきた花火。身近な存在ながら、実はよく知らない花火の製造工程や花火師の仕事、花火大会をもっと楽しむためのポイントなど、花火にまつわる情報をたっぷりとお届け。

見ている人の心に寄り添える花火を

1896（明治29）年創業の「高徳花火工場」は、県内でも数少ない煙火製造会社として、その技術を代々継承してきた。代表の飯田国夫さんが先代の父親から受け継ぎ、大切にしてきたのは技術と安全性、そして花火師としての「志」だった。

演出をトータルで考えるのが花火師の仕事

「玉張り3年、星掛け5年」と言われる花火師の世界。花火は設計図もなければ、実際に打ち上げてみなければ善し悪しも分からない。経験を重ねて体で覚えるしかない、まさに職人の技だ。こうした技術を父親から受け継ぎ、今に伝えているのが高徳花火工場の代表で花火師の飯田国夫さんだ。

同社が手掛けるのは、打ち上げ花火、仕掛け花火、演出用花火など多種にわたり、最近は学校行事や町内会、プロポーズなど小規模な花火の需要も増えているという。

花火の製造のほか、県内の花火大会の演出をいくつも手掛けてきた同社。花火大会は会場の環境や広さもさまざまであり、そうした部分を考慮しながら依頼者からの要望に基づき、どのような花火を上げるのか、色も形も違う花火をどのように組み合わせるのかなど、演出をトータルで考えることも花火師の仕事である。つまり良い花火大会にできるかどうかは花火師の演出力次第と言っても言い過ぎではないのだ。飯田さんが心掛けているのは、「世相に反映した花火を上げること。見ている人の心に寄り添える花火を演出すること」と話す。

観衆のどよめきや歓声に感動

飯田さんが花火師を目指すきっかけとなったのは18歳のときに、初めて花火大会の現場に連れて行かれたことだった。花火が打ち上がるたびに湧き上がる観衆のどよめきや歓声に感動し、「自分の仕事はこれだ」と決意。その後、父親の意向で一度会社員を経験し、24歳から本格的に花火師の道を歩み始めた。

高徳花火工場には社員のほかに、繁忙期だけ手伝いに来てくれる従業員（アルバイト）がいて、当時、社長を務めていた飯田さんの父親は、彼らのことをいつも「神様」と称していた。

2007年8月に、その父が他界。長男だった飯田さんは通夜から告別式まで、すべてを段取りしなければならず、その上、次の週末には花火大会が控えており、その準備も同時に進めなければならなかった。そんなときに声を掛けてくれたのが、従業員だった。「あなたがやらなければいけないのは、社長（父親）を立派に送り出すことだから、花火大会の準備は俺たちに任せてくれ」。こう言って自分の仕事を休んでまで、花火大会の準備に費やしてくれた。おかげで花火大会は無事開催でき、父親の葬儀も滞りなく行うことができた。このときに、父親が生前話していた「従業員は神様だ」という言葉を、本当の意味で理解できたという。

「職人の世界で何を守っていくべきか、花火師としての志を父から教えてもらいました」と話す飯田さん。昔からいる従業員たちは、新しく入った人たちにこうした。思い。まで伝えてくれる。「おかげで。高徳花火イズム。が、今もしっかりと継承されています」と誇らしげに語った。

花火を打ち上げる方法も伝統文化

高徳花火が何よりも大切にしてきたのは「安全性」だ。かつて花火師たちは花火の真下で作業をしていたが、現在はコンピューターによる遠隔操作が可能になり、けがのリスクは軽減されている。一方で、「花火を打ち上げる方法も伝統文化」と考える飯田さんは、伝統的な打ち上げ方法を後世に伝えたいという思いがある。その一つが、「手筒花火」だ。

手筒花火は、五穀豊穣や無病息災を祈って行う奉納花火のこと。「益子祇園祭」には、地元有志でつくる「下野手筒会」によって毎年実施されてきた。今年も今月20日に実施され、多くの観客を魅了した。飯田さんは「手筒花火を取り扱っているのは県内でもうちだけ。ぜひ、この迫力を生で味わってほしい」と呼び掛けた。

火の粉を浴びながら打ちあげる大迫力の「手筒花火」は、一見の価値あり

飯田社長に聞く！ 花火の製造工程と仕組み

花火は主に4つの工程でできている

花火は、主に4つの製造工程によってできている。①原料から火薬を作ることから始まり、火薬を配合する。②混ぜ合わせて「星」と呼ばれる火薬の塊を作る。火薬をまぶしたら天日干しをするという作業を繰り返し、星を必要な大きさにする。③その星を半球形の「玉皮」と呼ばれる紙製の容器にきれいに並べて詰めた後、④紙で包んで天日干しを繰り返し行う。1枚皮を貼っては天日干しをするという工程を10回以上行う必要があり、大きな花火になれば100回以上も紙を貼るため、非常に手間の掛かる仕事である。

球の大きさは、星そのものの大きさと星を何重にして詰めるかによって違ってくる。飯田さんは、「上空で開いたときに燃焼時間が長いと下まで落ちてきてしまうので、途中で消えるように計算された火薬の量を使っています」と話す。

一般的には「一斉に開いて一斉に消える花火が良い花火」だと言われており、星の大きさが均一でなければ燃焼時間に差ができてしまうため、「星の大きさをいかに均一にそろえられるかが職人の腕の見せどころ」となっている。また、「星を玉皮に詰める際、できるだけ空間ができないように密に詰める技術も重要」と語る。

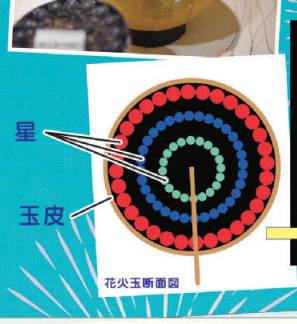
T A K A T O K U

花火の製造工程

① 火薬の配合…配合は社外秘
② 造粒…星を作る作業
③ 星を詰める…隙間なく詰めることが大切
④ 玉貼り…クラフト紙を幾重にも貼っていく

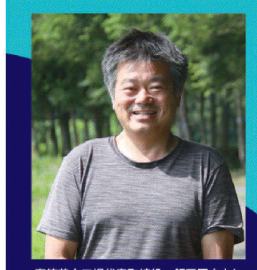
花火の仕組み

花火玉の断面を見てみると、火薬を球状にした「星」と呼ばれるものが敷き詰められており、この星が二重に詰められていると二重に、三重に詰められていると三重の輪の花火になる。星と星の間は星を飛ばすための「割火薬」で埋められている。導火線から火が点き、中心の割火薬に点火して上空で一気に玉が破裂。そのときに飛び出した火薬が美しい色や形の花火になるという仕組みだ。



花火玉断面図

どのタイミングでどの花火を上げるのか事前にプログラムを組み、当日はそれに合わせて花火を配列する



高徳花火工場代表取締役　飯田国夫さん

高徳花火工場
TEL：0285-72-6456
営業所／芳賀郡市貝町赤羽4069
工　場／芳賀郡益子七井3770

花火の種類

花火は、大きく分けて「割物（わりもの）」と「ポカ物」の2種類となる。「割物」とは、玉が破裂して球形に星が飛び散る丸い花火のことで、「ポカ物」は玉が割れて中の星が破裂しながら落ちていく花火のこと。ランダムな星の動きが特徴で、割物との組み合わせも、花火大会の見どころの一つとなっている。

○割物（菊、牡丹など）
古くから日本にある伝統的な花火。飛び出した星が広がるときに、尾を引くものを「菊」、星が点になって広がっていくものを「牡丹」という。

○割物（型物）
光の点や線で、ハートやスマイルマークなど、さまざまな形を描く花火のこと。技術の向上により、バリエーションが広がっている。

○ポカ物（柳、蜂など）
花火玉が割れてから、柳の枝が垂れ下がるように光が落ちてくるものを「柳」。玉が開くときに、火薬を詰めた紙の筒が回転しながら不規則に動くものを「蜂」という。

知っておくと楽しさ2倍！ 花火の歴史と種類

花火の歴史

花火の始まりは、中国の秦の始皇帝の時代で使われた「狼煙（のろし）」だという説や、唐の時代に火薬が発明されたことだという説などさまざまだが、それが現在のように「見て楽しむ」ものになったのは、14世紀ごろのイタリアだと言われている。当時はキリスト教のお祭りの際に火花や音を出す「しかけ花火」のようなものだったが、それがやがて世界中に広まっていき、さまざまな色や形が作られていくようになった。

日本に火薬が伝わったのは16世紀で、ポルトガル人が漂着したときに持っていた鉄砲の部品であったと言われている。その後、火薬は狼煙や火砲に使われ、観賞用の花火を最初に見たのは徳川家康だという説や伊達政宗、ポルトガルの宣教師が花火を打上げて人々を驚かせたという話などもあり定かではない。

また、花火大会と言えば「た～まや～」や「か～ぎや～」などの掛け声を聞いたことがあるかもしれないが、この掛け声は江戸時代に活躍した花火師の屋号、「玉屋」と「鍵屋」からきている。花火大会の際に、より美しいと思った方の花火師を賞賛するために、その屋号を呼ぶようになったと言われている。

夏休みに行きたい！　注目の花火大会

※開催日は変更になる場合があります。

尊徳夏まつり 大花火大会

2024年8月31日(土)
○開催時間／19:30～20:20（イベント16:30～、盆踊り18:30～）
○開催会場／鬼怒川河川敷緑地公園(砂ケ原橋付近)
○花火打上発数／約1万発
○問い合わせ先／尊徳夏まつり実行委員会
TEL.0285-74-4666　http://sontokunatsu.jp/natsu/
○駐車場台数／3000台無料
○荒天の場合／中止

尺玉の花火が打ち上げられ、特大スターマインなど会場から近い打ち上げは迫力満点。花火に合わせた音楽により演出が行われ、子どもから大人まで楽しめる花火大会。同会場では、16:30より郷土芸能大会や盆踊りなどのイベントも開催。

© 2023うつのみや花火大会

2024 うつのみや花火大会

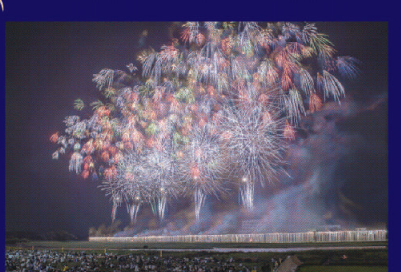
2024年8月10日(土)
○開催時間／開会式18:30　花火打上19:00～20:15(予定)
○開催会場／宇都宮市道場宿緑地(鬼怒川河川敷)
○問い合わせ先／NPO法人うつのみや百年花火
TEL.028-600-3980　https://www.utsunomiya-hanabi.jp/
○駐車場台数／4600台　※詳しくは公式ホームページで確認を
○荒天の場合／雨天決行　荒天時は2024年8月11日（日）に延期

2007年にボランティアの実行委員会形式で復活し、18回目を迎える。今年のテーマは「繋ぐ」。会場となる道場宿緑地を舞台に、全3部構成の音楽連動で大迫力の花火が宇都宮の夜空を華やかに彩る。第3部の「グランドフィナーレ～雷都うつのみや2024～」は必見！

第108回 足利花火大会

2024年8月3日(土)
○開催時間／19:15～20:50
○開催会場／田中橋下流渡良瀬運動公園及び渡良瀬川河川敷
○花火打上発数／約2万発
○問い合わせ先／足利花火大会実行委員会
TEL.0284-21-1354　https://ashikaga.info/youai_info/9617.html
○駐車場台数／約7000台無料　会場付近は17:30～21:30まで交通規制あり
○荒天の場合／2024年8月4日(日)に延期

1903（明治36）年に創始され、今年で121年、第108回を迎える。長年の伝統と歴史に加え、市の中心部で行われる本大会は関東地域でも屈指の花火大会として知られ、毎年多くの観覧者が関東一円から集まり、足利が最も活気に満ちた一日となる。約2万発の花火の打ち上げを予定しており、大玉の同時打ち上げやワイドスターマイン等が夜空を彩る。特にクライマックスの「ナイアガラ」は圧巻。



第72回 小山の花火

2024年7月28日(日)
○開催時間／19:10～
○開催会場／観晃橋下流　思川河畔
○花火打上発数／約2万発
○問い合わせ先／おやまサマーフェスティバル2024実行委員会
TEL.0285-30-4772　https://www.oyamanohanabi.com/
○駐車場台数／無
○荒天の場合／雨天決行、荒天時は2024年7月30日(火)に延期

今年で72回目を迎える「小山の花火」。花火の打ち上げ場所と観覧席が近いのが特徴で、迫力満点。市制70周年特別企画として500機のドローンが夜空を彩る「ドローンショー」も開催される。

第52回 真岡市夏祭大花火大会

2024年7月27日(土)
○開催時間／19:30～21:00
○開催会場／真岡市役所東側五行川沿い
○花火打上発数／約2万発
○問い合わせ先／真岡市商工観光課
TEL.0285-83-8135　https://www.moka-kankou.org/
○駐車場台数／約4000台　無料
○荒天の場合／2024年7月29日(月)に延期

市制施行70周年の節目を飾る新たな取り組みとして、県内初ドローンショーを催します。市制70周年の記念ロゴマークやSLなどを表現し、「真岡市70年～未来へつなぐ大輪の花～」をテーマに、約2万発の花火とともに夜空を彩ります。